

一般質問でも請願でも奮闘!
6月1日、国は「合計特殊出生率」が1.25まで下がったことを明らかにしました。

(川西市1.07)

たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 黒田みち



市会議員団控え室 TEL 740-1111 (内線4020)
直通FAX 759-1811
黒田みち事務所 TEL 795-4760

若い人達が安心して結婚をし、こどもを生み育てることが困難になっている原因として、女性や20代の男性は2人に1人、30代の男性は3人に1人が不安定雇用であること、その収入も正規職員の約6割、7割しかないこと。長時間や夜間労働など働くされ方の問題、子育てにお金がかかること(1万円)や子育てのための環境悪化が言われています。

特に、昨今の経済格差の広がりや社会保障の切捨てが少子化に拍車をかけています。

年間7300万円あれば どの子も

小学校へあかるく

医療費無料



安心して子育てをするために、医療費の負担を軽減させることが急務です。
そこで、各自治体では何らかの助成をはじめています。

(表参照)

当局は、「今財政事情のことを考えると、県以上のことはやらない」という答弁に始終するのですが、中央北地区開発の皮革工場廃業のための補償費は、当初予定の54億円が89億円に…土地は地権者のままなので、その土地の借り上げ料(06年度1億2千万円)、関連業者への補償費、約2億円、たつの市への移転へ1億8000万円…と、どんどん税金を投入(大型開発の借金の返済に追われるのは市民)

保育所保育料を比較しても阪神間では高い川西市。

子育てには厳しいけれど、高齢者や障害のある方に優しいかというと各種福祉金の廃止、高齢者交通費助成の休止などなど、この間の弱者と言われる人々のための施策をばっさり切っていることも批判しながら、自治体の責任を問いただしました。

厚生経済常任委員会では、市民から提出され

こどもは病気や怪我をするもの、今は、子育ての悩みも含めて病院を訪れる若いママやパパも増えています。

一般質問で調査した内容や川西市で2歳児まで無料にする為に必要な予算は約3600万円、0歳児だけなら約2000万円で可能ではないか、ぜひ請願を採択すべきだと強く意見を言いました。

市がやろうとすれば、すぐにでも実行できる内容なのに、委員会では継続審査になりました。

税金の使い方を何を基本に使うのか?それが自分が問われます。



赤旗まつりにて…

自治体の仕事の基本は住民福祉の増進ですから、その基本に立ち返ってもらわなければなりません。

声をあげ、手をつなぎましょう!

この4月から、障害者自立支援法が始まりました。

作業所に働きに行つた

ら、一日510円の「利用料」を支払わなければならなくなりました。

お一人は月7000円の工賃、もうお一人は月2万円。「働きに行つたら赤字になるから作業所通りをどうしようか迷っている」という声。

昼食は今まで無料だったものが、一食650円に跳ね上りました。

ごまめのはざしり

命を大切にしない国で未来はありません。ぜひ変えて行きましょう。

食育という考え方で保障されていたものがなくなり、食材費と人件費と光熱水費まで負担することになりました。

「障害年金をわずかばかり残して、全部吸い上げられていく…」ボツリと語られました。

この国は、豊かな国でしょうか?優しい国でしょうか?

	対象	助成内容
伊丹	0~6歳児	7月1日より 乳幼児医療一部負担無し 小学生 入院のみ負担なし
宝塚	0~2歳児 3~6歳児	通院・入院共に負担なし 入院は負担なし
芦屋	0歳児 0~2歳児 3歳児~6歳児	所得制限無し・1歳児から所得限度532万円以内 自己負担なし 外来1回700円月2回まで(低所得者500円)
西宮	0~3歳誕生日末まで	入院・外来共保険適用医療費全額
三田	0~3歳誕生日末まで 3~6歳児	通院・入院共に負担なし(1歳以上所得制限あり) 入院負担なし
尼崎	0~3歳誕生日末まで	負担なし
猪名川	0~6歳児	所得制限なし



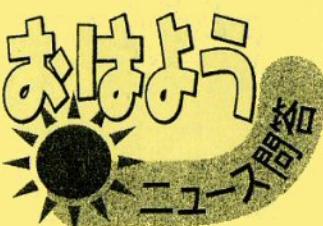
●医療改悪法成立

高齢者・国民に負担増を強いるとともに保険のきかない医療を拡大する医療制度改悪法が成立しました。自民党、公明党が数の力で押し切りました。

「いま三割負担です。七十歳になつたら一割負担になると楽しみにしていましたが、二割負担になるとどうか」(大阪・茨木市で六十九歳の女性。本紙・地方版から)と改悪反対署名に願いを託した国民は約二千万人にのぼります。国民世論にも背を向け、衆院でも参院でも審議を行います。改悪法を撤回し負担増を止めすべきです。

晴男 それに療養病床の数まで減らそうっていいんだ違う。いま全国で

うば捨て山だわ



医療守る運動がますます大事ね

晴男 保険がきく診療と組み合わせる「混合診療」が拡大されようとしているのも大問題だ。い

晴男 年間六割の二十三万床も減らすんだって。すで

に療養病床を廃止した病院もあって行き場がなく困っている人もいる。

陽子 ひどい話よね。七十五歳以上の高年寄りを集めて、新たに後期高齢者医療制度をつくろうというのも問題だわ。年金の少ない人や、これまで保険料を払っていないなか人も含めて、みんな保険料をとられる。払えなかつたら、保険証とりあげ也可能のことになるっていふんだから、昔の「うば捨て山」のような制度だわ。

陽子 改悪法は通ったけれど、これで終わりじゃない。患者の負担増を中止させ、「混合診療」の拡大、療養病床の削減の実施を許さない運動をもっと強める必要がある。新しい高齢者医療制度も、二年後の実施に向

まは「差額ベッド」や高齢先進医療とか例外だけれど、これが広がれば、保険外の負担が増え、お金がなければそもそも治療が受けられなくなる危険性があるよ。

陽子 改悪法は通ったけれど、これで終わりじゃない。患者の負担増を中止させ、「混合診療」の拡大、療養病床の削減の実施を許さない運動をもっと強める必要がある。新しい高齢者医療制度も、二年後の実施に向

みを一つ一つ打ちあがっていくことだね。国会では与党が多数で採決したけれど、国民や医療関係者のなかでは、こんな改悪はこんでもないという声が多い。日本医師会などがとりくんだ医療改悪反対署名は、千七百万人分を超えたそうだ。

陽子 國民の中でも医療現場でも矛盾と怒りがもっと広がる可能性がある。うんと共同を広げていきたいわね。

(2006・6・17)

しんぶん赤旗

日刊●月2,900円
日曜版●月 800円

医療改悪法のポイント

●大規模な国民負担増

【06年10月~】

▷現役並み所得(注)の70歳以上の高齢者の窓口負担
2割 → 3割

▷70歳以上の療養病床入院高齢者の食費・居住費の負担増
▷高額療養費の自己負担
限度額引き上げ



【08年4月~】

▷70歳~74歳の高齢者の窓口負担
1割 → 2割

▷65歳~69歳の療養病床入院患者の食費・居住費の負担増

●保険のきく医療と、保険のきかない医療を組み合わせる「混合診療」の拡大

●療養病床の大削減

【12年3月まで】

▷現在38万床

の療養病床を約6割削減。具体的には医療型(約25万床)を約15万床に大削減。介護型(約13万床)を全廃する



●後期高齢者医療制度の創設

【08年4月~】

▷75歳以上の高齢者だけの医療制度。独自の診療報酬体系をつくるなど「差別医療」を狙う

▷75歳以上の全高齢者から保険料徴収(年金からの天引きなど)

▷保険料の滞納者から保険証を取り上げ、資格証明書発行の措置が可能に

●国保加入の65歳以上の高齢者の保険料を年金から天引き

●政府管掌健康保険の改変

【08年10月~】

▷社会保険庁の運営を切り離し、全国単位の公法人「全国健康保険協会」を設立。都道府県ごとに支部をつくり財政運営をするため、保険料の格差が生まれる

(注) 現役並み所得者=今年8月からは夫婦2人世帯で年収約520万円以上、単身世帯で同約380万円以上

命を守る国民の力これからも

